



# 民生委員・児童委員通信 しゃわせ HAPPY NETWORK

No.11 平成22年9月1日

発行 守山市民生委員児童委員協議会

事務局 守山市社会福祉協議会  
住所 守山市下之郷三丁目2番5号  
TEL 077-583-2923

(金)、守山市民生委員児童委員協議会は、今年度総会後に全員研修をエルセンターで開催し、プロゴルファーの中溝裕子氏の講演「みんながいるから今があるから」と題して、今年あるから」を聴講しました。

中溝氏は、プロ歴3年目で骨髄異形成症候群と診断され、骨髄移植を受けられています。移植後の激しい拒絶反応の苦しみに耐え、それを乗り越えられた生き様についてのお話でした。

特に闘病生活中に親族の方より勧められ取り組まれた絵手紙は、自分の苦しみを紛らわすものとして始められました。しかし、ともに病と闘う人たちに勇気を与えていたことを知り、逆に勇気付けられ、病を克服され、現在ではプロゴルファーとして活動のかたわら、講演や闘病生活を支えた絵手紙で骨髄バンク支援に尽力されています。



講演の中で、病気発症から骨髄移植とその後の拒絶反応の強い苦しみに対しても身の強い気力で「絶対に元気になつてごはんを食べ、ゴルフをしてやる」と、自分を100%信じ切つて、その苦しみを乗り越えられてきた話を伺いました。また、病をきっかけに多くのことも学ばれましたが、中でも「人生で大切なのは、いかに人を元気にして喜ばせることが出来るか、という奉仕の心なのだ」と氣づかれたお話をされました。

今、年間3万人以上の人たちが自ら命を絶つて現実に直面し、現在私に出来るのは、「命の大切さを伝えること、当たり前の生活が出来ること、喜びをかみしめ、生きることの素晴らしさを伝えていきました。『命の大切さを伝えること』とも話されました。

私たち民生委員児童委員の支援活動は、生活福祉支援、特に闘病生活中に親族の方より勧められ取り組まれた絵手紙は、自分の苦しみを紛らわすものとして始められました。しかし、ともに病と闘う人たちに勇気を与えていたことを知り、逆に勇気付けられ、病を克服され、現在ではプロゴルファーとして活動のかたわら、講演や闘病生活を支えた絵手紙で骨髄バンク支援に尽力されています。

## 県外研修 「しあわせの村」を訪問する

高齢者福祉、児童福祉、障がい者福祉、災害時一人を見逃さない運動と多岐に亘ります。社会生活を営む上で、取り組む問題に大小ではなく、私たち委員一人ひとりの支援活動は微力なですが、その支援活動が、「人様の喜び

## みんながいるから今があるから

彦根市出身のプロゴルファー

となり、それが自分の喜びにも変わる」ことを今回の研修で学びました。これからも、そのことを信じつつ、支援活動に取り組んで行きたいと思っています。(大西記)



中溝氏の絵手紙より

「支援を要する家庭を幾度となく訪れ、保護者と信頼関係をつくり、相談にのる」、「相談の内容に応じて、関係機関につなぎ、解決の方向へ導く」、「毎日あいさつ運動に取り組み、子ども達の微妙な変化に気づき、学校園に知らせる」、「学校園と連携しながら、家庭状況が不安定な子どもをサポートする」。これらは、日頃、民生委員児童委員の皆様方が、各地域で取り組んでくださっている支援活動のほんの一例です。

ただ、この守山においても、都市化や核家族化による結果、「子ども達や地域のために」ご支援をいただいていることに心から感謝申し上げます。

ただ、この守山においても、都市化や核家族化による結果、「子ども達や地域のために」ご支援をいただいていることに心から感謝申し上げます。そこには、地縁的なつながりがだんだん希薄化しています。その結果、民生委員児童委員の方々から「誰が、どこに住んでいるか、わかりにくい」、「声をかけようにも、なかなかきつかけが難しい」といった、具体的な苦労話を聞かせていただくことがあります。このような課題も日々あるとは思いますが、あいさつ運動や子どもの見守り活動を通して、地域のいろいろな方とつながりをもつ「地域のネットワークづくり」をより強化していただきることが大切であると考えております。

教育委員会では、青少年育成市民会議の皆様方と共に「心と心をつなぐ あいさつ運動」を積極的に展開しております。あいさつ運動で人と人のつながりができ、子ども達は心豊かに育ち、地域も活性化し、地域の子育て力も高まる

子どもから大人、高齢者も障がいのある方も、誰もが心を安らげることのできる総合福祉のひとつあるべき姿を考えさせられた研修となりました。

(済上記)



守山市教育長 上路 博  
日頃の活動に感謝して



# 部会活動

## 一第四部会一 (児童・家庭福祉部会)の活動紹介

### 取り戻そう 夢多い子供時代の環境

部会長 中道 良昭

この3年、児童・家庭福祉部会として多くのことを学んできましたが、今年はその集大成の年となりました。民生児童委員の職務は、地域のみなさんへの相談・支援・救済活動がうまく機能するよう時代の要請に応えるサービスを実現するための行政への提言も任されています。守山市長がよく言われる「ご近所力」って何だろう。ご近所力は「日常」から生まれ、日常から「文化の香り」というものが生まれてくるのでは。



子どもの頃は、夏の夕暮れ、庭に床机を出しての家族の夕食、隣同士のもうい風呂、頬母子講に代表される講、近所へのおすそ分け、子どもによる火の用心など文化の香りの生まれる素地が多くあった。「道草」という子ども文化が消え、遊び場の消失が言われる。子どもが外で遊ばない。遊ぶにもゲームやパソコン、携帯が現れ、平行して遊び空間が失われたなど、環境がそうさせた。これが子どもの心身の劣化にもつながっている。民話のふるさと遠野は、「ガードレールの似合わぬ町」とよく言われる。三面側溝やガードレールの似合わぬ町にしたい。昔、遊びは道が中心で、その道が空き地や原っぱ、川、森、神社の境内へつながっていたが、道はほぼ車に奪われ、遊び空間が失われた。子どもは群れて外で遊んで、親だけでなく、多くの大人、友達に育てられるべきだと思う。地域社会で言えば、隣同士のさり気ない見守りが力を発揮する。昔の良さをヒントに夢多い子ども時代を過ごせる文化の香りを取り戻したいものです。それが真の豊かさにつながるものと思います。

### 小冊子「かけはし」は優秀賞、中洲学区民児協は優良民児協表彰を受賞

■ 市民児協の第三部会(障害児・者福祉部会)作成の市内の障がい者福祉施設を紹介した小冊子「かけはし」が、滋賀県民生委員児童委員協議会連合会の「活動強化コンクール」のポスター・リーフレットの部で優秀賞に選ばれ、6月3日(木)、県長寿社会福祉センターで開催された総会で栄えある賞を受賞しました。部員一同は、その内容とともに全員が連携した取材活動などが認められたものと喜び、関係された方々にも感謝しています。冊子では、市内10カ所の障がい者福祉施設について、開設目的や商品、所長のメッセージなどを全頁カラー刷りで見やすく紹介しています。



今後、この冊子が市民の方々の身

### 湖南4市主任児童委員交流会を開催

7月9日(金)、守山市のライズヴィル都賀山にて、草津・栗東・野洲・守山4市の主任児童委員約50人が、各市の活動報告や情報交換を行い、また、バンド演奏等を楽しんで交流を深めました。

今年は、守山市の主任児童委員13人が企画・準備から運営を担当しましたが、守山市の民話を語ったり、自作の紙芝居を紹介するなど、日頃の活動の一端を披露しました。(畠中記)



### 編集後記

広報委員を担当して2年と7ヶ月が経過し、第6刊(第11刊までの広報の発行を担当致しました)。

その間を振り返れば、景気の低迷による生活困窮問題や子ども虐待問題は、年々右肩上がりの数字を示し、社会的に弱い立場にある人々にとって、安心した生活が送りにくく状況が続いている。そこで私たち民生委員児童委員として、更に行政や地域住民の方々と連携し、地域福祉の向上に努めて行きたいと思います。皆様のご理解ご協力をお願い致します。

(大西記)

今年十一月は、任期3年の民生委員児童委員の改選期です。現在の広報委員による「しゃわせ」発行は、本号が最後となります。

本紙では、研修先である神戸市の総合福祉ゾーン「しゃわせの村」を紹介しましたが、「しゃわせ」は、「幸せ」のほか「仕合わせ」とも書きます。互いの存在価値を認め合い、共に仕え(支え)合うことに喜びを感じるとき「しゃわせ」は生まれてくるからです。

3年間の本紙を通じ、「すべての人がしゃわせになること」への願いを、お伝えできていれば「しゃわせ」です。

(渕上記)

# 学区だより

### 地域の子どもは地域で育てよう = 速野学区

速野学区民生委員児童委員協議会は、児童委員としての活動にも積極的に取り組んでいます。

平成17年度から実施している「赤ちゃん訪問活動」、各自治会の「子育てサロン」への協力、「一日保育士体験」、「児童福祉作文の募集」、「中学校正門前でのあいさつ運動」、「校園への定期訪問」、「保幼小中合同情報交換会」などです。

こうした活動の積み重ねにより、速野小学校からは、毎年「春の遠足」と「びわこの日の活動」の際に引率の依頼があり、各学年、民生委員児童委員が2人ずつ同行しています。去る6月25日に行われた1・2年生の「びわこの日の活動」では、地元の神社まで児童と歩き、一緒にゲームや読み聞かせ、ごみ拾いなどの活動を楽しみました。児童とふれ合い、顔見知りになるよい機会になりました。

このような活動を通して民児協の中で、地域の子どもは地域で育てようという意識が高まってきたように感じます。また、校園をはじめ、いろいろな機関や団体と連携していくことの大切さも実感しています。



近な存在として幅広く利用され、文字通り、障がい者福祉施設と市民との「かけはし」となることを願っています。

(部員 大谷記)

■ 中洲学区民児協は、県民児協連絡会において、「優良民生委員児童委員協議会表彰」を受賞しました。これは、長年に亘って諸先輩が築かれ、続けてこられた民児協の福祉活動に対しての表彰であり、また、私たち現委員への激励をいただいたものと受け止めています。今後もより一層充実した地域に根ざした活動に精進しなくてはと、思いを新たにしております。

(中洲学区民児協 富田記)

# 活動日誌

### 玉津学区

#### ~ふれあいお楽しみ会に参加~

玉津学区の民生委員児童委員は、「ふれあいお楽しみ会」に參加しました。

ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯の方をお招きし、八日市大廟会館に行きました。会館ロビー内の100畳大廟に驚き、国内だけでなく世界の珍しい廟を見学、場所を変えての昼食などを通して、参加してくださった方とゆっくりふれあいをもつことができました。

次回も元気で参加してくださることを願っています。



### 小津学区

#### ~人にやさしい民生児童委員が自然にやさしい間伐材クラフトを指導~

小津学区民生委員児童委員は、日常的な各種サロン事業や、赤ちゃん訪問事業を通して「人にやさしい」活動をしていますが、人だけではなく「自然にもやさしい」活動に取り組むため、ふれあい広場等の学区民の集いの場に「間伐材クラフト」のコーナーを開設、子どもに指導し、人気を集めています。

山から集めてきた間伐材をいろんな大きさに切り、さまざまな動物や置物をつくる作業を通して、子どもや住民との交流を深め、かつ民生児童委員のPRに役立てています。

